

| | | | | | | | |
|-------------|--|----|--|------------------------|--------|----------|------------|
| 科目名 | 基礎看護Ⅷ (基礎看護技術統合演習) | | | DP1 DP2 DP3 DP4 DP6 | 看護高等課程 | | |
| 学年 | 1年 | 分野 | 専門 基礎看護 基礎看護技術 | 時間数 | 30時間 | 担当教員 | 浦 恵、他専任教員 |
| 科目概要 | 看護技術は、単なるテクニックやスキルではなく知識と看護職者の人間性に裏づけされて実践の上で育まれていく看護を表現するものである。看護職者は、常に対象にとって何が最善か判断基準を持ち、対象の状態の変化に対応しながら、対象をより良い状態にするための思考や技術をもたなければならない。事例の状況を想像し、看護をすることや自己の看護実践を常に振り返り考察する事で、対象が身体的にも精神的にも回復を促進できるよう、日常生活援助技術を身につけ、磨いていけるような内容とした。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 演習や自己学習、技術練習を振り返り、自己の日常生活援助技術の課題を明確にすることができる。 2. 患者の状態を踏まえ患者のニーズや援助の必要性を理解し、安全性を配慮した援助を考えることができる。 3. 患者の援助において羞恥心、保温、苦痛の軽減に配慮し、必要なコミュニケーションを図りながら安楽な援助を考えることができる。 4. 援助目的の達成状況を観察をもとに振り返り、評価し援助の問題点や改善点を見出すことができる。 5. 看護職者が行う日常生活援助において安全・安楽なケアの必要性やその意義がわかる。 | | | | | | |
| 回数 | 単元項目 | | 授業内容 | | | 形態 | 担当教員 |
| 1～15 | 統合技術演習 | | 演習の進め方、ビジョン・ゴール/戦略シート記入、リフレクションノート、ポートフォリオの整理の方法、事前学習等 | | | 講義 演習 | 浦 他専任教員 |
| | 統合技術演習 | | グループ演習 | | | 講義 演習 | |
| | 技術試験 | | パフォーマンス課題の内容の1つが技術試験の対象となる。(状態に応じた生活支援技術) | | | 技術 試験 | |
| | 試験 | | 知識確認試験 | | | 試験 | |
| | シミュレーション演習計画立案 | | 次回からのシミュレーション演習(基礎看護実習Ⅱの実習病棟の患者を想定した患者像)のオリエンテーションと演習計画の立案 | | | 演習 | |
| 評価基準 | 技術試験は、ルーブリック評価(学習成果物・実技・筆記試験)をもとに評価し、総合評価が100点となる。この総合評価点で6割以上を合格とする。この技術試験の合格は基礎看護実習Ⅱの必須要件となり、不合格の者は実習できない。また、授業時間数の3分の2以上の出席が必要となる。 | | | | | | |
| 評価方法 | 出席状況と講義演習への参加態度、課題レポート、筆記試験などで総合的に評価する。また、シミュレーション演習、パフォーマンス課題、ルーブリックに基づき、ポートフォリオの内容等も総合的に評価を行う。 | | | | | | |
| 教科書 | 看護学入門 6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床 看護技術 医学書院 疾患別看護過程の展開 必要時、資料等は配布する。 | | | | | | |
| 履修上の 注意点 | | | | | | | |